

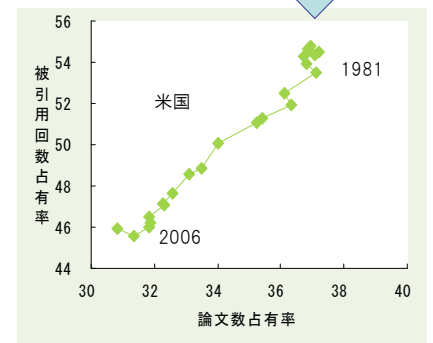
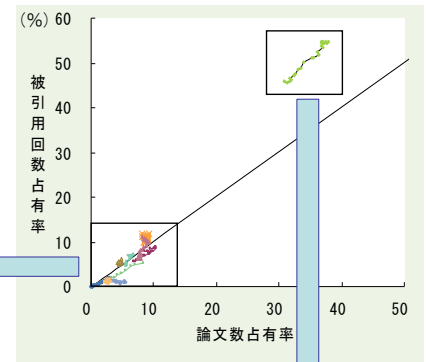
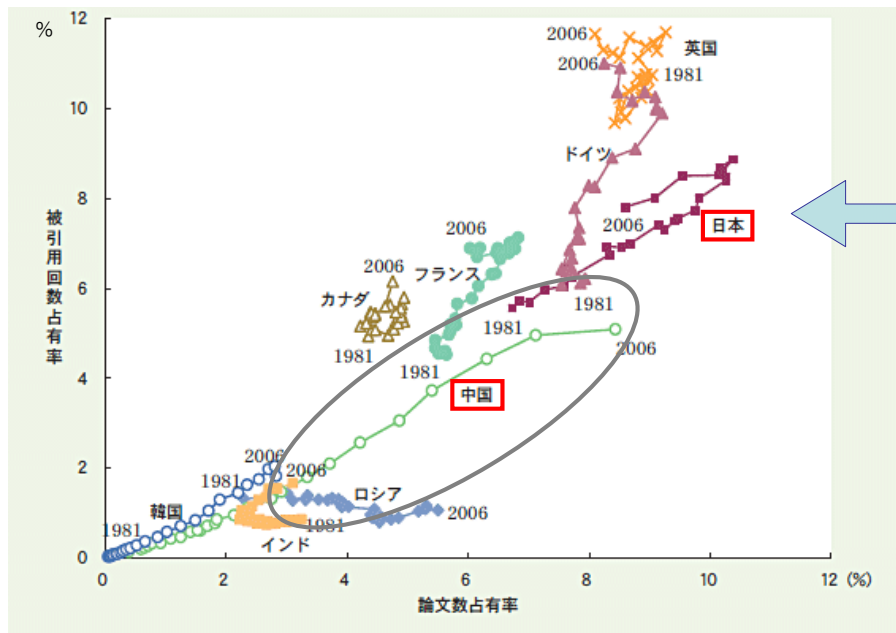
# 参考資料集

## 目次

主要国の論文数占有率と被引用回数占有率の推移	1	研究開発法人における収入総額と支出総額	15
アジアと比較した我が国の産業競争力の水準	2	諸外国における公的研究開発機関の数	16
主要国等の研究者数の推移	3	我が国の研究開発法人と諸外国の国立研究所に関する相違点①	17
世論調査 ～国際競争力と科学技術～	4	我が国の研究開発法人と諸外国の国立研究所に関する相違点②	18
世論調査 ～社会の新たな問題と科学技術～	5		
各国通貨ベースの主要国等の科学技術関係予算の推移	6		
主要国政府の科学技術予算の対GDP比の推移	7		
主要国の政府負担研究費割合の推移	8		
OECD諸国の一人当たりの国内総生産(名目GDP)の順位	9		
科学技術指標の国際比較	10		
諸外国における研究開発システム改革①	11		
諸外国における研究開発システム改革②	12		
優れた研究者を確保するための取組	13		
米国における科学技術分野の博士号取得者の国籍	14		

## 主要国の論文数占有率と被引用回数占有率の推移

○ 中国が躍進しており、日本が追いつかれる可能性がある。

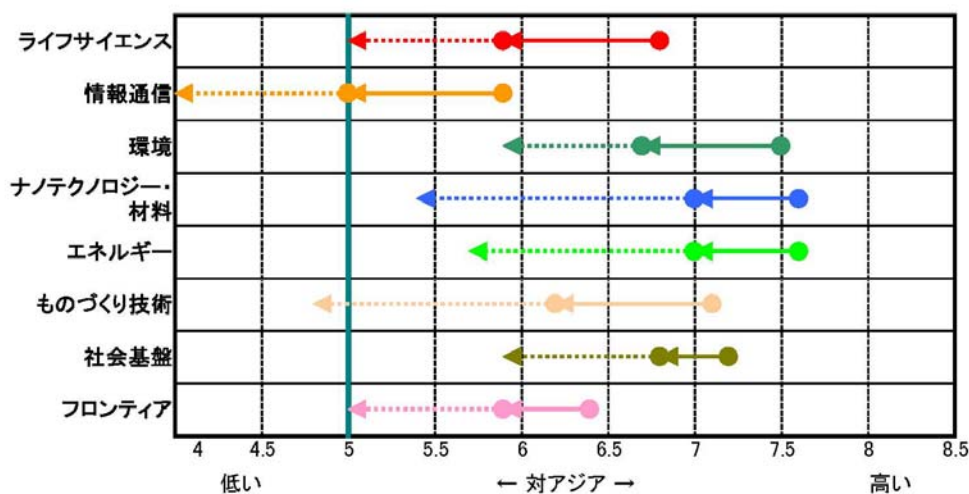


注) 1. 人文社会科学分野は除く。  
2. 複数の国の間の共著論文は、それぞれの国に重複計上した。

出典:平成20年版 科学技術白書 1

## アジアと比較した我が国の産業競争力の水準

○ 我が国の産業競争力水準に関する研究者への意識調査によると、**我が国のアジア諸国への優位性は今後5年間で大きく低下することが懸念されている。特に、情報通信分野については、現時点でアジアと同等の水準、今後5カ年でアジア諸国に追い抜かれることが懸念されている。**



実線矢印の始点が2006年時点、実線矢印の終点(点線矢印の始点)が2009年時点、点線矢印の終点が2014年時点(2009年度調査における5年後の推定)を示す。

〈矢印の見方〉 2006年 2009年 2014年(推定)

出典:科学技術政策研究所「科学技術の状況に係る総合的意識調査」(定点調査2009)